

高等学校のコミュニティ・スクール

高校は、小・中学校と異なり、通学区域が広範囲にわたること、また、様々な課程・学科等があり、学校ごとに教育目標や地域の期待等も異なることなどの特性があるため、本県では、高校のコミュニティ・スクールを、各学校のテーマに応じて、広く大学や企業、関係機関等と連携し、学校や地域の課題解決を図る「テーマ型コミュニティ・スクール」と位置付けています。

具体的には、学校・学科等の特色や専門性を生かして、地域や地元企業、大学等と連携しながら、地域資源を活用した特産品や新たな観光ルートの開発、地元自治体のまちづくりに関する提案など、地域の活性化に貢献する、高校ならではの取組を行っています。



地元企業との連携による商品開発(県立大津緑洋高校)



明るい未来を創る 山口県の地域連携教育



下松市立末武中学校



山口市立二島幼稚園



美祢市立秋吉小学校



山口市立湯田中学校



県立防府商工高校



県立下関総合支援学校

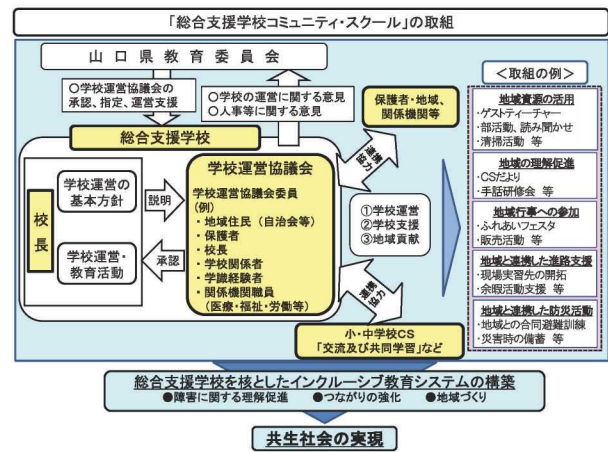
総合支援学校のコミュニティ・スクール

12校の総合支援学校(本県での特別支援学校の呼称)全てに、コミュニティ・スクールを導入し、子どもたちの自立と社会参加につながる生きる力の育成や、障害のある子どもたちについて地域の一層の理解促進を図り、共生社会の実現を推進しています。

地元高校の文化祭へのカフェ出店、地元自治会の方と協働した不燃物の仕分け作業等、地域の方や地元の小・中・高等学校等との様々な交流を通して、子どもたちは、人と関わる喜びを高め、自信を深めています。



地元自治会と協働した不燃物回収作業(県立宇部総合支援学校)



今後、県教育委員会が重点的に取り組んでいくこと

小・中学校

各学校・地域における取組の一層の充実に向けて、地域コーディネーターなどの人材の養成や配置、地域と連携したカリキュラムの充実、研修会における各地域の取組事例の普及や広報啓発、学校や公民館等を活用した放課後子ども支援の充実などに取り組んでいきます。

高等学校

2020年度までに全ての県立高校にコミュニティ・スクールを導入し、地元地域や大学・企業等と協働した課題解決型学習を推進することにより、学校・地域の課題の解決に積極的に取り組み、「地域に愛され、地域とともにある学校づくり」を推進します。

総合支援学校

学校・家庭・地域が一体となった特色ある教育活動の展開、地域の障害及び障害者への一層の理解促進に向けた開かれた学校づくりを通して、一人ひとりの心がつながる共生社会の実現に向けてさらなる特別支援教育の充実に努めます。

子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中、子どもたちの生きる力を育むためには、学校・家庭・地域が連携・協働して、社会総がかりでの教育に取り組むことが重要です。

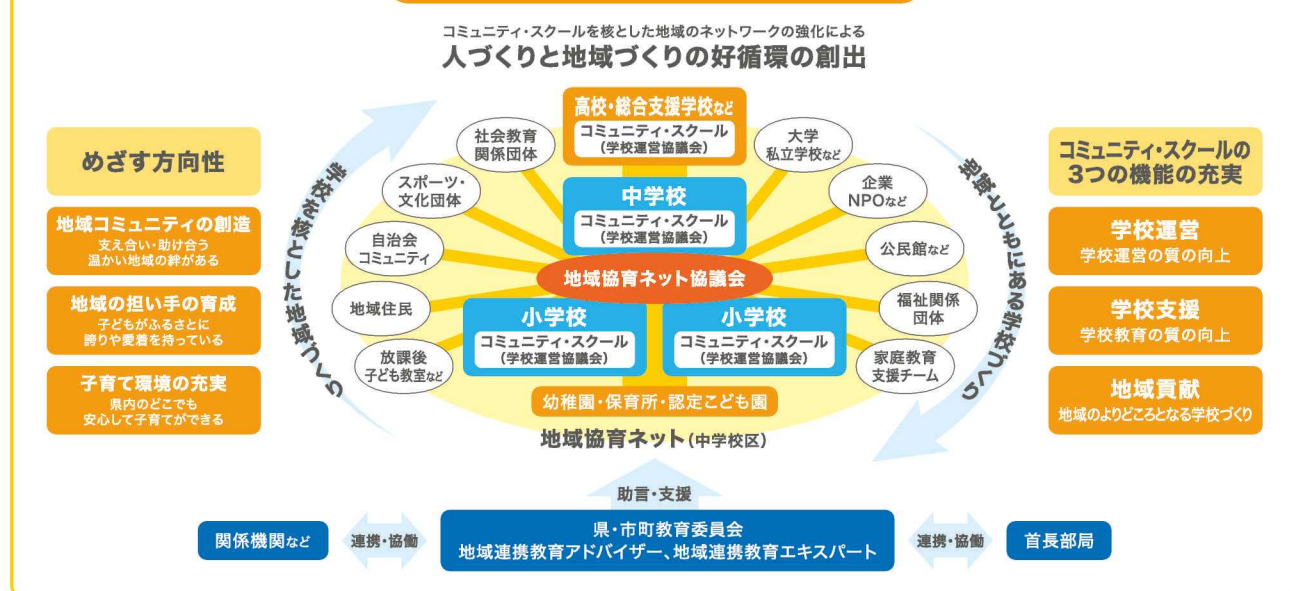
山口県教育委員会では、コミュニティ・スクールが核となり、本県独自の地域協育ネットの仕組みを生かして、社会総がかりで子どもたちの学びや育ちを見守り支援する「やまぐち型地域連携教育」を推進しています。

この取組を充実させることで、子どもたちの生きる力が育まれ、ふるさとを愛する心や地域の担い手としての意識が高まるとともに、学校という場を核として、大人同士の絆の深まり、更には地域教育力の向上、地域の活性化につながっていくと考えています。

【県の窓口】山口県教育庁 〒753-8501 山口市滝町1番1号

(小・中学校)義務教育課 やまぐち型地域連携教育推進班 (TEL)083-933-4595 (FAX)083-933-4609
 (高等学校)高校教育課 高校改革推進班 (TEL)083-933-4636 (FAX)083-933-4619
 (総合支援学校)特別支援教育推進室 (TEL)083-933-4615 (FAX)083-933-4619
 (地域協育ネット)社会教育・文化財課 家庭・地域教育班 (TEL)083-933-4661 (FAX)083-933-4669

「やまぐち型地域連携教育」の推進



「地域教育力日本一」の実現

本県では、人口減少の克服に向けた地方創生の取組が本格化しており、地域の将来を担う人材の育成や地域力の強化を図ることが喫緊の課題となっています。

このため、県教育委員会では、コミュニティ・スクールを核とした「やまぐち型地域連携教育」の充実を図り、ふるさとへの誇りや愛着をもち、地域社会の発展に貢献する人材を育むとともに、子どもも大人も地域の魅力を実感・再発見し、地域を活性化させる「学校を核とした人づくりと地域づくりの好循環の創出」をめざした取組を推進しています。

小・中学校のコミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールの仕組みを生かし、「どのような子どもたちを育てるのか」、「何を実現していくのか」などの目標やビジョンを学校と家庭・地域が共有した上で、相互が連携・協働する教育活動を展開しています。「学校運営」「学校支援」「地域貢献」の3つの機能を充実させるため、取組の評価・改善を定期的に行い、学校・家庭・地域が一体となって「地域とともにある学校づくり」の実現を図っています。



地域の文化祭に中学生が参画(宇部市立上宇部中学校)

地域協育ネット

地域協育ネットの仕組みを生かして、多様な人材の参画による地域ぐるみの活動の推進を行っています。具体的には、地域協育ネット協議会において、校区の課題やめざす子ども像の共有、活動計画策定などの協議を行い、統括コーディネーターを中心に、地域未来塾や土曜日等における多様なプログラムによる教育活動の充実、放課後子ども教室の充実と放課後児童クラブとの連携促進等を行っています。



地域の方による宿題サポート(岩国市灘地区協育ネット協議会)

児童生徒や教職員、保護者、地域の皆さんの声

児童生徒

- 地域の方とのふれあいを通して、自分たちが大切にされていると感じます。と同時に、すごく期待されていることも感じます。
- 大人の方々と「こんな地域を創りたい」という思いを共有し、それを行動にうつし、地域を盛り上げていきたいと思っています。

教職員

- 「学校がよかった。子どもたちが変わった」と様々な場面で、地域の方から評価していただけることが多くなり、我々教職員のやりがいにつながっています。
- PTAや学校運営協議会の委員さんらとよく話し合い、目の前の子どもたちのために何が必要かを見極めていきたいと思っています。

保護者

- 毎日の登下校をはじめ、たくさんの地域の方々が、子どもたちを見守り育てていただいていることに、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。
- 地域ぐるみの活動への参加を通して、学校や家では見られない我が子の新たな一面を見ることができて幸せです。
- 我が子だけでなく、全ての子どもたちに目配りをしようという気持ちが出てきました。

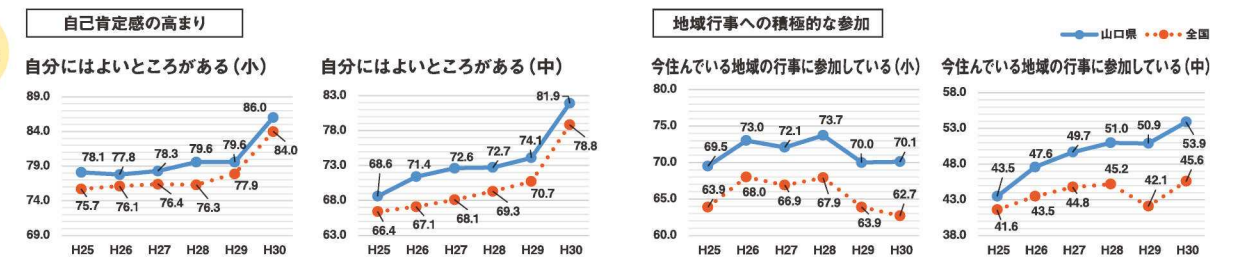
地域の皆さん

- 「子どもたちのために」と思っていることが、実は自分自身のためにもなっていると最近感じるようになりました。
- 学校が主催する活動に参加するだけでなく、我々大人も地域の活性化に向けて、できることをしていきたいと思っています。
- 地域からの押しつけによる活動にならないように、学校のニーズを的確に把握していくことが大切だと思います。

「やまぐち型地域連携教育」の成果と課題

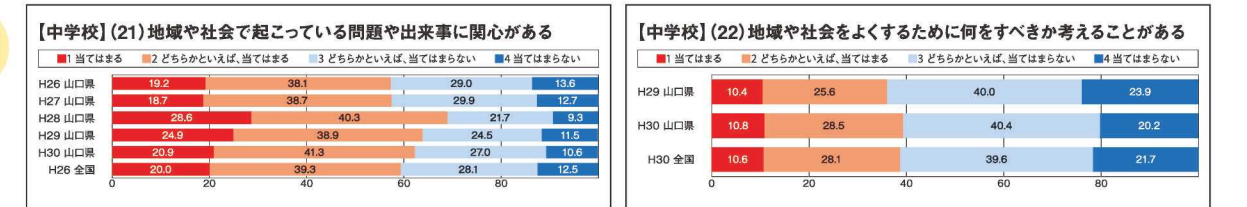
[データの出典] 全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙調査)

成果



本県では、上記2つの質問項目において、肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国平均を大きく上回っています。学校と家庭・地域が連携・協働するコミュニティ・スクールの取組により、「自己肯定感が高まっている」、「地域行事へ積極的に参加できている」と感じている人が多くなっています。

課題



中学校3年生では、上記2つの質問項目において、肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均をわずかに上回る程度にとどまっています。

新学習指導要領では、社会的・職業的自立に向けて、キャリア教育の重要性が挙げられています。その実現に向けては、「地域の課題に、子どもたちが社会の一員としてどのように向き合っていくのか」、「一人ひとりの子どもたちに、よりよい社会の創り手としての自覚をどのように高めていくのか」など、これからの学校教育の在り方について、学校と保護者・地域がともに考え、ともに取り組んでいくことが重要であると考えています。